

第12回放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年3月4日(火) 14:00～15:10

2. 開催場所 天草ケーブルネットワーク(株)3F会議室

3. 委員出席

委員総数 9名

出席委員数 8名 欠席委員数 1名

出席委員の氏名 岡部紀夫(委員長)／中村敏朗／田中光徳／江浦むつえ

岩下行也／草積芳実／原田麻美／江崎航

放送事業者側の出席者 代表取締役 西村正治／常務取締役 佐々木啓二

統括本部長 松岡誠也／メディア事業部長 芥川琢哉

営業企画課長 藤川陽介／ラジオ制作課長 池田真理子

ラジオ制作課 平山高広／アドバイザー 小山真一

マーケティング戦略室 西田晃一／野方一生

オブザーバー 天草市情報政策課情報政策係 泉 知輝

4. 議題

- ① 開会
- ② 社長あいさつ
- ③ 委員長あいさつ
- ④ 報告事項
- ⑤ 番組聴取・審議
- ⑥ その他

5. 議事の概要

開会後、西村代表取締役から審議会に対し諮問。

岡部委員長統括の下、事務局より近況報告をした後、二つの番組「①教えてまちの消防士さん(月～木 6:30-9:00【のさりん♪モーニング】内コーナー番組)」、「②Amakusa TEENS VOICE～High school radio～」について、「番組が企画意図に沿う内容となっているか」「放送曜日、時間等は適切であるか」「担当パーソナリティは適切であるか」を視点に審議を頂き、当日答申を頂いた。

6. 審議内容

① 開 会

- ・委員出席報告（委員 9 名中 8 名の出席）
- ・リモート出席報告：芥川部長

② 社長あいさつ

前回の審議会（12 月 4 日）から早 3 か月、改めて委員の皆さまにお世話になる。

3 月 2 日にケーブルテレビ開局 30 周年を開催し、多くの皆さまにご参加いただいた。天草ケーブルネットワーク、みつばちラジオに関心を寄せていただいていることを実感できる機会となった。

LINE 公式アカウントの友だち新規登録数では、1,500 件という目標を掲げていたが、1,500 超の方々に新規登録いただけた。このことにより、天草ケーブルネットワーク、みつばちラジオの情報が、更に使いやすいものとなっていくのではないかと考えている。

ラジオ番組に関しても、地域の皆さまからの色々なアドバイスをいただきながら、改善していきたいと考えている。

先日、上天草市長と懇談する機会があり、上天草の方でもみつばちラジオを聴きたいという声が上がっているとのこと。まだ整理が出来ていない状況だが、今後の課題として「天草は一つ」ということで、同市長にも関心を持っていただいたので、みつばちラジオがまだまだ伸びていくのではないかと期待している。

今後も地域の皆さまから色々なアドバイスをいただきながら頑張っていきたい。

③ 委員長あいさつ

寒さが戻ってきた中であって、委員の皆さまに出席いただきお礼を申し上げたい。

先日、ケーブルテレビの記念行事があったが、市民の関心の高さ、期待の大きさが伝わったのではないと思う。やはり、この天草ケーブルネットワークのみなさんの存在は、天草において欠くことのできない、それだけの地位を残してきた、そのような歩みを示した記念日だったと思う。

本審議会では毎回貴重なご意見を頂いているが、みつばちラジオとしても的確に取り上げていただき、改善すべきは改善して頂いているように思う。

今日も審議会に宿題が出ている。委員の皆様からのご意見よろしく願いたい。

④ 報告事項

【ACN としての方針に関する報告】（佐々木常務取締役より報告）

○先日の 30 周年の式典の中で、社長の西村より当社のパーパスを発表。

【パーパス（ACN の存在意義）】

地域と未来をつなぐ架け橋となり、天草の価値を高める

※パーパスとは：企業の存在意義を言語化したもの

なぜ私たちが存在するのか、社会や地域にとって自分たちがどんな価値を提供するのかを言語化したもの。

- ・「地域の架け橋となる」とは：地域を活性化するという意味合い。
- ・「未来をつなぐ架け橋となる」とは：持続可能な未来をどのように目指していくか、新しい技術と地域をつないでいく等の意味合い。
- ・「架け橋」の意味：
 - ① 天草自体が五橋で島々をつなぎ、近代化して発展してきたという意味
 - ② その橋を使って、当社のインフラ設備もつながっているという意味
 - ③
- ・当社が「地域と未来をつなぐ架け橋」となることによって、暮らしやすさの向上（防災、教育インフラや医療の充実、経済的豊かさの発展、文化や自然の伝承など）に取り組む。
- ・選ばれる天草を創るために、守るだけでなく天草の価値を高めることが必要と考える。
- ・事業戦略の遂行を通してパーパスを実現していく。
- ・現在、みつばちラジオの事業戦略を策定している段階。事業戦略が固まったら委員の皆さまにも報告差し上げたい。
- ・以上、本日の審議会において、会社としてどのような方向を向いて取組を進めているかも必要な項目と考え、この場を借りて報告差し上げた。

※次ページ：近況報告

【近況報告】 事務局より報告

- ・前回 12 月の審議会以降、1 月には幅広い年代のリスナーの獲得、ラジオの出演、さらにスポンサー獲得を目指し、一部について番組改編を行った。
 - ・市民に日々の有用な情報をお届けする番組として、月曜日から木曜日まで、朝・昼・夕方、2 時間半の生放送で番組をお送りしている。その中で、これまで夕方にお届けしていた「B-Station」という番組について、新たに「くるる」という番組へ衣替えを行った。
 - ・「くるる」では、各地区振興会の情報・高校生の取組・若手の第一次産業従事者を紹介するコーナー、そして、天草の産品を紹介して販売促進につなげるコーナーなど、あらゆる方面の情報をリスナーのみなさまにお届けしている。
 - ・通常放送としては、上記の番組に加え、金曜日は朝 7 時から夜 9 時まで、生放送および自主制作放送を行っている。
 - ・土曜日・日曜日は午前 10 時からお昼 12 時まで、観光・イベント情報を中心に、バラエティ色を交えた生放送を実施している。
 - ・地域にリポーターを派遣し、地域の情報をリアルタイムでお伝えしている「ぶんぶんリポート」において、本年度は 2 月 20 日付の集計で 120 回のリポートを数え、取材先は元より関係者のみなさまに喜ばれているところ。
 - ・ACN のパーパスを踏まえ、地域コミュニティを担われる各まちづくり協議会、各地区の振興会を訪問し、防災情報を含めた地域情報の提供を依頼するとともに、みつばちラジオの活用方法をお示ししているところ。
- この訪問はすでに成果を出し始めており、2 月 5 日に天草地方に大雪が降った際には、振興会の担当者から雪情報がメッセージでもたらされるとともに、電話リポートでもご出演いただき、地域の詳しい雪情報をお伝えいただいた。
- ・3 月 2 日（日）には、ACN の 30 周年感謝祭「地域と未来をつなぐ架け橋に」を開催し、当社が運営するテレビ・ラジオを地域情報のプラットフォームと見立て、多くの来場者を得て、つながりを創った。
 - ・今後もパーパスを念頭におき、詳細な地域情報を獲得することにより、市民の皆さまが聴きたくなるみつばちラジオを目指している。
 - ・最後に、前回の審議会の開催時に番組についてご意見を賜った件については、今後の対応を掲載した「みつばちラジオにおける番組に対する審議会からのご意見及び今後の対応」という資料を配布させて頂いている。一度ご確認をお願いしたい。

【委員からの意見等】

○特になし

⑤ 番組聴取・審議

(1) 教えてまちの消防士さん

(月～木曜日 6:30-9:00 「のさりん♪モーニング」 内コーナー番組)

【企画意図（コンセプト）】

- ・月に2回、各消防署（分署）の担当者と電話をつなぎ、火災予防の啓発や救急車の必要性、緊急時の対処方法などの情報を発信していただくコーナー。
- ・地域で働かれている消防士さんに実際にご出演いただくことで、消防士さんを身近に感じていただくと共に、もしもの時、また災害時などの時にも、地域密着をしていただきながら、連携体制の構築に役立つことを目指す。

○委員：この番組の放送期間はどれくらいか？

- ・事務局：現在に至るまで2～3年経過している。

○委員：非常に良い取組だと思う。

ただ、未だ野焼きをされる場所が多く、近隣から臭い等で困っているとの話を聞く。山火事も心配される中、野焼きに対する啓発を拡充出来ないか？

○委員：正月に鬼火焼きをするところがある。あれも消防署へ届出を出す必要があるが、知らない方もいると思われるので、時期に応じて法律的な所にも触れながら話して頂くといいと思う。

消防士にとって「勤務中の電話」ということもあることから、5分という時間設定は非常に良いと思う。警察官のコーナーも含め何度も聴いているが、共に時間が絶妙にいいと感じている。

今回、「防災ヒーロー認定証」という話題が出ていた。初めて聞いた言葉で、認定証は、4種目の内容をクリアしないといけないこと、また入団試験があるということを知った。改めてこういうことは発信が大事だと感じた。

○委員長：季節の行事を放送される時に、防災に関する話も含めて話されてはどうか。

○委員：出演されていた消防士の勤務先が「南消防署」と言われ、「どこ？」と思った。ネットで検索するとその場所が出てくるが、もし車の中で聴いていたとしたら場所が気になり、次の話が入ってこないと思った。

自分たちの中では当たり前と思っていることが、聴いている方にとっては当たり前でないという事がある。誰でも分かるように話していただきたい。

ただその後話を聴いていたら、短い時間の中ですごく良いこと（重要なこと、注意すべきこと）を分かりやすく話されていた。良い番組と思った。

○委員：私は高浜在住なので、「西天草分署は南消防署の管轄」ということは直ぐに分かった。ただ、管轄の本部がそこ（南消防署）にあるというのは知らなかった。そこら辺を説明する時間があってもよいかと思った。

○委員長：天草管内の消防署がどのような形になっているのか、説明があると分かりやすいと思う。

○委員：救急車は消防署の中にあるのか？

・事務局：消防署（分署含む）の中に配備されている。

○委員：番組名が「教えてまちの消防士さん」なので、救急について話を聞くことはないのか？

・事務局：各署・分署によっては、救急のことにしてお話しされるている。

○委員長：時間的にはちょうど良い。短く感じるぐらいの情報がよいと思う。また、事前の打合せがよくできていると思われ、話題を上手く引き出せていたと思う。

ただ、前回も話題になっていたが、パーソナリティさんの話の仕方、技術が、もう少し控え目でもよいのではないかな。ちょっと芝居じみている。落ち着いた雰囲気引き出してもらった方が、相手の主役としての役割が、より引き立たせられるのではないかなと思う。少し行き過ぎた感じがする。自然体が欲しいと感じる。

・事務局：消防署の方々が本当に協力的。毎回事前打合せの際から「こういうやり取りをします」ということを、常に前日までに各分署の担当の方から FAX でいただいている。消防署の方も年間の計画を立てていただきご協力をいただいているので、今も継続できているところ。

○委員：消防署の方が、一生懸命言いたい気持ちが先行してうまく言えなかった部分があった。一般の方だから仕方ないと思って聴いていたが、パーソナリティが後から擁護するとか、繰り返し言ってもらっているの、その点はすごく良かったと思う。

○委員：生放送中に緊急要請がかかったことはないのか？

・事務局：番組生放送中にスタジオから電話をかけて対応して頂くが、先方が電話に出られないこともあったりする。その際はこちらの方で対処し、コーナーを飛ばすなどして対応するようにしている。

○委員：消防士さんは、各地域のイベントに積極的に協力下されることが多い。消防署が行われるイベントの中で、みつばちラジオのアプリの広報を行っていただくなど、連携できる部分があるのかなと感じた。

私も商店街に所属する中で、消防署と「防災ヒーロー入団試験」を一緒にやらせて頂いたが、子どもたちの参加が非常に多かった。若い世代が牛深以外からも来ていたので、「ラジオを聴いて来た」という可能性があり、ラジオは非常に魅力があるものだと思う。

生放送だけではなく、再放送もあっていいのではないかなと思う。

・事務局：今後も連携を取りながら出来れば良いと考えている。

○委員：番組に登場した消防士は昔から知っている。5分という限られた時間で、結構急いで読んでいるなという感じがしたが、一生懸命さが伝わってきた。

番組的にはすごく良かったと思う。

○委員長：企画書に沿った内容で、防災情報に力を入れていることを感じる。

非常にコンパクトにまとまった良い番組で、欠かせないコーナーである。

(2) Amakusa TEENS VOICE ～High school radio～

【企画意図（コンセプト）】

- ・高校生のパーソナリティによる番組。
- ・テーマを設けて話したり、学校内でのイベント・出来事など、身の回りのことを交えて話す番組。
- ・今の高校生たちの日常を知ってもらおうと共に、出演することで若者たち、高校生にラジオに興味をもってもらい、また、若者のリスナーの獲得、さらには、将来のパーソナリティという職業を目指してもらえるように、番組の制作を行っている。

○委員：この番組は、リスナーの10代から20代を対象とした2人の女の子による30分番組だが、聴いていて「普通の会話」がラジオで流れているイメージ。司会進行がいた方が聴きやすいと思われる。

○委員：聴いた時、我々の世代と違うと感じた。

今回、弁当を作る話で、親の作った弁当の話とか自分たちで冷凍食品を工夫したとか。そういうのが、「ああ、今時だなあ」と感じた。我々世代は後期高齢者なので当番組等を聴くことがないが、今の高校生の雰囲気が出ていたと思う。

また、どれくらいの若い世代が聴いていたのかなと思いながら聴いていたが、我々世代もたまに聴いて「今の子どもたちはこういう考えなのだな」とか、その世代のことが少し分かったような気がした。

途中で入る曲も自分たちで選曲したと思う。自分たちでやっているということに感心した。

○委員：少し30分は長いかなあという印象を受けた。内容も、同じ言葉が何回も出てくるなど20分くらいでもよいかと。

ターゲットが「10代から20代」となっているにも関わらず、放送時間が土曜日午後6時からというのが気になった。この時間は、早い方は御飯を食べる時間で、見聴きするならテレビかと。ラジオを聴きながら御飯を食べる人がいるのかという印象。

再放送は午後9時。自分でも聴いたことがあるので大丈夫かと思う。

出来れば午後4時、5時ぐらいとか、早い時間に持って行った方が10代、20代は聞く印象がある。

もう1点お尋ねで。この放送は毎回この子どもたちがするのか？

- ・事務局：現在、高校生は5名登録している。そのメンバーをシャッフルした形で都合が良い子どもたちでシフトを組み収録をしている。同じ組合せではない。

○委員：その子どもたちが収録する時、様子は楽しそうか？

- ・事務局：お聴きいただいた通り、普通の話をして、あのキャピキャピ感をもって女子高生がしゃべっているような感じで録っている。

○委員：本人たちに長いとかの感覚は無いのか？

- ・事務局：ターゲットというか、こちらからは「ラジオの放送を」と言うことを話して番組を送ってもらっているが、あの内容だと長いとは思っていないと感じてい

る。

○委員長：「弁当」や「節分」の取り上げ方は自分たちの話し合いで？

・事務局：自分たちでの話し合い。

○委員長：この番組は「高校生の、高校生による、高校生のため」の番組と考えてよいのか？

・事務局：その通り。

○委員：本人たちと関わりのある友だちの中で「私聴いているよ」と言った会話はあるのか？

・事務局：学校の中で少しずつあるよう。

最初の番組担当は2人だったが、「私もやってみたい」という友だちを連れて来るなど、そういう広がりはずいぶんあるよう。

若者が番組に「出演する」ことによって、周りで聴いてもらえる若者、高校生が増えればよいという事も踏まえての番組企画となっている。

○委員長：男子はいるのか？

・事務局：今のところいない。

○委員：男の子が出てくるとテーマも変わってくると思う。

○委員長：男の子にとって「弁当は何か」とか。

・事務局：確かに。

○委員：実際、楽しい番組である。

○委員長：高校生の日常が分かる良い番組と思う。

強いて言うならば、弁当には幼稚園、小学生、中学生の頃、遠足とか、色んなところでの思い出というものがある。良い事ばかりじゃないかもしれないが、そこまで発展させてもらえればと思う。

○委員：この番組では今の高校生の気持ちを話している。昔の思い出のお弁当とかは、意図的な形、演出といった形になってくるかと思われるので、逆にやらない方がよいかと思う。

今の高校生たちはほとんど標準語に近いというか、イントネーションにびっくりした。パーソナリティは同じ高校の生徒か？

・事務局：天草高校の2年生が務めている。

○委員：冒頭のタイトル、自己紹介を早口で言った後に、いきなりスコーンっと下がって、その後普通の会話になる。その点がすごく面白い。

番組の中で、お互いの名前をライズとミッキーと呼び合っているようだが、途中、本名で呼んだりしている。「自分たちの名前、覚えていないの？」とも思うが、同じ学校で同じクラスの隣同士であり、それだけ近い関係性だからこそ素直に相手の名前を言うところもあるかと。だからこそ作りこまれてない感じがする。「あ、最近の高校生ってこんな感じなのだな」というのがすごく伝わる良い番組だと思う。

ちなみにパーソナリティの募集等は行ったのか？

- ・事務局：一部の学校にお願いに行き、こういう風な番組をやろうと思うと伝えたところ、興味を持った高校生から連絡が来てそれからになる。

○委員：パーソナリティ募集ついて、学年の指定は行っていないのか？

- ・事務局：行っていない。今パーソナリティを務めている子どもたちは2年生で、今後進級していくことから、新たに1年生をはじめその次を探していかないといけない時期に来ている。

今後も少しずつ入れ替わりが出てくるかと思っている。

○委員：企画意図に「満足に放送できない状態になる問題がある」とある。

解決手段として「中高生に分ける」とされているが、そのやり方で放送の充実化を図ることは進んでいるのか？

また「パーソナリティ力の向上」とあるが、現在の放送を聴いた内容だとフリーにしゃべっているという感じがする。みつばちラジオとして「子どもたちの成長をさせるのを目的」に企画されているのか？それとももう、「自由にしゃべっていい」という感じにしてあるのか？

その辺りが、企画意図として分からないので教えていただければ。

- ・事務局：「パーソナリティ力の向上」については、企画書に記載のとおり、最初は「Amakusa TEENS VOICE」という事でスタート。引き続き中学生がやっている番組があるが、こちらでは今後自分たちでミキサーもやっていけるようにと指導が始まっている。また、中学生であることから、まだまだ高校生みたいな話は出来ていないが、その点においても、スタッフが指導を行っているところである。

高校生の High school radio については、ご指摘の状況であると受け止めており、なかなか手をつけられていないような状況。興味がある人に対し指導することは出来るが、あまりに手を加えてしまうと、高校生本来の力を発揮できず、今のような良い雰囲気が出来ないのかなという風に思うところもある。

その点も含め、今回ご審議の中でご意見を賜りたい。

○委員：高校生に指導するというのは難しいと思うが、企画書で「パーソナリティ力の向上」と謳う以上、そういう部分を作らなくてはいけないのではないのか。現在のやり方では1年終えた時に、出来たこと、出来なかったことなど、企画書における検証が出来ないと思われる。

ただ、先ほど言われた「興味をもってもらう、楽しんでもらう」ことを重視するのであれば、企画内容を差し替えた上で新たに組み込まれた方がよい。

1年後、取り組みの成果として「卒業証書」を渡すなどはどうか。また、番組を高校生と一緒に作り上げるということは、先ほど説明があったパーパスに謳う企業価値という部分に繋がるのではないのか。

- ・事務局：参考にしたい。

○委員長：「審議のポイント」に、「番組が企画意図に沿う内容となっているか」とあるが、改めて本企画書を拝見した時、企画意図（コンセプト）が、何を狙っているのか明確ではないと感じた。

技術論とか手段、手法ややり方については書いてあるが、これをどうして構想したのか、何を伝えていきたいのか、何を目指すのかについてももう少し書かれた

方が、企画書と実際の放送が上手く合う感じがする。「教えてまちの消防士さん」は、企画書で示されたことが放送内容に対応している。

高校生の番組は、何のための放送かという点が希薄。もう少し詳しく書いて頂きたい。

○委員：私も高校生の娘がいるので、保護者目線で聴かせて頂いた。

娘たちも普段、こういう会話をしているのだろうと思いながら聴いていたが、女子高生の時は思春期でもあり、私たちの頃は、あんまりお父さんとしゃべりたくないというものがあつた。洗濯物も「一緒に洗わないで」とか言ったこともあつた。

「寂しいなあ」と思っているお父さん方も多くいらっしゃると思うが、高校生の娘さんをお持ちのお父さんたちが聴かれると、娘たちはこういうのが好きなのか等、この番組で知れると思う。

私が高校生や中学生の時、V6 が出演していた「未成年の主張」という番組があつた。告白したり、嫌な事とか大変な事を話したりとか、面白くてみんな観ていた。今後例えば、有名人の活用であるとか、ゲストを呼んで「今日誰かに告白します」と言うのも面白いのではないか。高校生のターゲットを増やすとした際、そういう番組があればもっとお友だちが聴いてくれるかと思う。

○委員：恵方巻の話がちょっと気になった。

私たちの頃は、恵方巻を食べる習慣は無かつた。あれは、関西圏の人が節分の時に恵方巻を食べていたものがテレビなどで世に出て出来た文化。

天草には元々恵方巻を作る、食べる文化が無い。子どもたちは、具材の話などをしていたが、この子たちは自分たちの町の地域文化を知らないのだろうと思った。

地区の文化なり何なりを分かっただけで放送をしてくれるとありがたいと思った。

○委員長：番組は一部構成、二部構成となっているが、組み立てについて意見はないか？

○委員：一部はどちらかっていうとラフに喋っていて、二部は自分たちで調べたことを話すという形だったかと思う。

調べて話していたことが「らしいです」など、自信なさそうに話している部分があつたが、可能ならもっと自信をもってしゃべってもらいたい。

話がずっとラフなままだとキツイので、構成の違いという部分ではそれでいいかと思う。ただ、最後まで自信をもって色々お話頂きたい。

○委員：これは収録なのか？

・事務局：はい。

○委員：例えば、前半は2人で、後半は2人追加して4人になったりとか、今後、番組内で人が増えたり減ったりというバリエーションがあってもいいかと思った。

○委員長：私が一番気になったのは、男性が入るとどうなるかという点。

○委員：中学生がやっている番組を聴いたことがあるが、中学生は男の子も話が上手い。高校生の番組においてもやる気があれば男の子も可能かと思う。

○委員：高校生も中学生も放送部の子どもたちではないのか？

・事務局：違う。

○委員長：この5名の子どもたちの将来の進路は何？放送関係に進みたいとか。

・事務局：そこまで話をしたことがない。

今、中3の女の子で TEENS VOICE（中学生の番組）をやっていたでいる。来年度高校に進むが、その一人はラジオをやりたいとか、ここで働きたいと言ってくれるぐらいになっている。受験も終わったので、ミキサーの練習を始めようかと思っている。

○委員長：1つの職業観というか、そういったものを自分の中で作っていってくれるとよい。

その他、全体を通して、また、みつばちラジオ全般について何か意見等はないか？

○委員：番組編成が1月から変わったとのことだが、それ以前と以後で天草発信のオリジナル番組と、キー局から入ってきた番組との割合に変化はあったのか？

・事務局：その点は変わっていない。

1月から変更になった分は、月曜日から木曜日までの夕方15時30分から18時までの2時間半の番組内容だけが変わったもの。それ以外に変更はない。

○委員長：本日も色々指摘があった。事務局におかれては、しっかり受け止めていただき次に生かしていただければと思う。

⑥ その他

○事務局：次回開催は、6月10日（火）午後2時からを予定している。

また、今後の2025年度の開催は9月9日（火）、12月9日（火）、来年3月10日（火）いずれも午後2時からの開催を予定している。委員皆さまのご予定をお願いしたい。

○委員長：予定が示された。かなり先の話にはなるが調整のうえ全員出席できればと思う。よろしくお願いします。

○事務局：次回以降の番組の聴取と審議項目についてお願いがある。

これまでは、各番組内でのコーナーや30分以内の番組をご審議頂いてきたが、次回開催の折に、朝の「のさりん♪モーニング（朝6時半から9時）」、お昼の「ココカラ Citrus タイム（11時半から14時）」、そして夕方の「くるる（15時から18時）」という情報帯番組に関してもご審議を頂ければと考えている。

ただ、2時間半という長い番組になることから、いつも通りCDに搭載して短時間でお聴きいただくということが難しいと思われるので、よろしければ各自お手隙の時に各番組をお聴きいただき、番組全体を通してご意見をいただければと考えている。お忙しい中とは思いますが、ご理解いただきお願いしたい。

今後の審議にあつては、6月開催時に朝とお昼と夕方と一度に3番組の審議をお願いするということではなく、例えば、6月開催時は朝の「のさりん♪モーニング」に関してのご意見をいただければと考えている。

○委員：最初の6月は「のさりん♪モーニング」と決めた方がいいと思う。

・事務局：確かに決めた方がよいかと思う。それでは朝の番組から審議を行っていただくということでしょうか？

○全委員：了承

○委員長：今後の審議内容はどうなる？

・事務局：6月10日が「のさりん♪モーニング」。

9月9日が「ココカラ Citrus タイム」。

12月9日に「くるる」ということでお願いしたい。

○委員長：3月については？

・事務局：改めてこちらの方で調整させて頂きたい。

○委員：審議はこの情報番組1本か？他に短いものを1本とかはないのか？

・事務局：コーナー等の審議については検討させて頂きたい。

○委員長：短いコーナー等がある時は、CDを送るということでしょうか？

・事務局：その際はまたCDを送らせていただきたい。

15:10 終了

7. 審議機関の答申

答申日：令和7年3月4日

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法：自社ホームページ（4月予定） <http://www.acn.tv.ne.jp/>

9. その他参考事項

なし